

令和5年度 旭川工業高等専門学校数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル） 自己点検・評価

評価日時：令和6年4月25日

会議名称：点検評価改善委員会

開催場所：旭川工業高等専門学校

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定申請の観点による評価

評価項目	自己評価	評価理由
履修・修得状況	S	全学におけるプログラムの履修率は100%、うち修得率は98.6%であり、良好である。
学修成果	A	プログラム科目の平均点は次のとおり良好な結果を示しており、十分な学修成果があがっている。 情報・数理基礎：82点、数学ⅢB：75.4点、数理・データサイエンス：80.4点
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	S	授業評価アンケートにおいて、95%の学生が「プログラム科目に関する領域への興味・関心が高まった」と回答している。また、単位取得状況からも、内容について一定の理解に達している。
学生アンケート等を通じた他の学生への推奨度	A	プログラム科目は全て全学科共通の必修科目で構成しており、他学生への推奨度の調査は行っていない。
全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	S	プログラム科目は全て全学科共通の必修科目で構成している。そのため、在籍する全学科の学生がプログラムを履修することとなり、履修率が100%となる。
教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価	—	これまでにプログラムを修了し卒業した学生はいない。今後は、就職先に対して実施しているアンケート調査の結果を基にしたプログラム改善を検討している。
産業界等社会からの視点を含めた教育プログラム内容・手法	A	上記の就職先アンケートに加え、毎年開催している学外の有識者よりなる運営懇話会からの意見をプログラムに反映させる仕組みとなっている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	S	授業評価アンケートにおいて、95%の学生が「プログラム科目に関する領域への興味・関心が高まった」「プログラム科目を学ぶことの意義についての説明があった」と回答していることから、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	S	授業評価アンケートにおいて、97%の学生が「授業の内容を理解できるような工夫や事前準備・授業の進め方がなされていた」と回答している。また、単位取得状況からも、授業内容の難易度は適切である。

【評価基準】

S：評価の観点を上回る成果を達成した。

A：評価の観点通りの成果を達成した。

B：評価の観点通りの成果をできず、改善の必要がある。